

様式3		令和4年度 小金井市立緑小学校 自己評価まとめ					
学校教育目標 人間尊重の尊重の精神を陶冶し、知・情・意・体の調和のとれた人間性豊かな子どもの育成を目指す。 ○たかましい子ども ○すすんでする子ども ○たすけあう子ども ○かながえる子ども							
目指す学校像(ビジョン)							
【目指す児童】 ○学び合い、支え合い、高め合う 緑小							
【目指す児童・生徒像】 ○心豊かで、自ら考え、行動する「緑っ子」							
【目指す教師像】 ○授業で勝負するプロフェッショナルとして、授業力向上を目指す教師 ○子供の心に向き合い、使命感をもって根気強く指導に取り組む教師							
前年度までの学校経営上の成果と課題 小金井市初のコミュニティ・スクールとして、学校・家庭・地域が協働し、外部人材を活用した学習や児童の放課後の活動を充実させることができた。また、「すすんで考え、共に学び合う子供の育成～ICT機器を活用した協働学習の推進を通して～」というテーマで校内研究に取り組み、タブレット型パソコンを使った学習を充実させることができた。全学年が日常的に使用できるようにしていくことが今後の課題である。							
	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		成果と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標	
人権尊重の育成	児童の見本となるように、教職員が積極的にあいさつを行うとともに、児童の主体的なあいさつ運動を充実させる。	4		各クラスで創意工夫し、児童が主体的に挨拶運動に取り組んだ。笑顔で気持ちの良いあいさつをできる児童が増えてきている。「緑小と地域を挨拶で、元気に明るくする。」というテーマで挨拶運動に取り組んでいるが、外部の方に向けた挨拶については、さらに充実させていく必要がある。地域、保護者と連携した挨拶運動を展開していく。	4	3	児童が自分たちで考えた方法で挨拶運動を行うことで、挨拶をすることへの意識が高まり、自分から積極的に挨拶をする児童が増えてきた。一過性のイベントで終わるのではなく、日常的な取組になるようにしていくことが今後の課題である。コミュニティ・スクールであることを生かして、地域、保護者、学校が協働して、児童のあいさつへの意識をさらに高めていきたい。
	学期に1回のアンケートを実施して実態をつかむとともに、ふれ合い月間を中心に全校でいじめ撲滅への取組を行う。	4	4	ふれあい月間のいじめアンケートやWebQUの結果等をもとに、丁寧に児童対応を行ってきた。また、6月にいじめ防止研修を行い、職員がいじめ防止に対する意識の向上を図った。いじめアンケートや1学期末に行う学校生活の振り返りアンケートでは、児童のいじめに関する肯定的な評価がいずれも90%を超えているが、100%を目指して今後もいじめ防止に努めていく。	4	3	全クラスでWebQUを行い、その結果を児童理解や学級経営に生かすことができた。また、各学期に行ういじめアンケートを基に、児童に丁寧に聞き取りを行い、いじめの未然防止、早期発見、早期解決に努めることができた。児童アンケートの結果を見ると、楽しく学校生活を送れている児童が多いことが分かるが、いじめ0を目指して、今後もいじめ撲滅の取組に力を入れていく。
向上業の推進・学力	児童が、問題の解決に向けて、主体的、創造的に探究する学習を積極的に取り入れる。	3	4	クロームブックを活用して調べ学習をしたり、「スクールタクト」を使って個人個人のまとめを行ったりする等、ICT機器を有効に使用して、総合的な学習の時間や理科、社会を中心に、問題解決型の学習を充実させることができている。今後は、児童同士で話し合いながら学びを深めていくような学習に力を入れていく。	4	4	たぬきの糸車(1年:国語)、あつたらいいな、こんなもの(2年:国語)、はんで意見をまとめよう(3年:国語)、心のバリアフリーを目指して(4年:総合)、自然災害に備えて(5年:総合)、私たちにできること(6年:総合)等で、問題解決型の学習を充実させることができた。クロームブックを活用することで、児童の表現の幅が広がったので、児童同士の交流を通して学習を深められるようにしていくことが今後の課題である。
	全教員が「ICTを活用した協働的な学習」を実施し、児童にとって分かりやすく楽しい授業を展開する。	2	4	校内研究で、ここまで3回の研究授業を行い、「スクールタクト」や「コラボノート」を活用した協働学習が充実しつつある。学習の中で、クロームブックを使用する機会が増え、児童も操作にかなり慣れてきている。文字入力や操作のスキルの関係で、低学年の使用率が低い傾向にあるので、低学年での活用が進むよう改善を図っていく。	4	4	児童それぞれが作成したものを見合うことができる閲覧機能や一つのワークシートに複数の書き込みのできる共同編集機能等を、学習内容に応じて使い分けながら、協働的な学習を充実させることができた。ZoomやGoogle Meet等のWEB会議システムを使ってグループごとに話し合いを行うなど、新しい形態の学習にもチャレンジしており、今後もさらなるICT機器の活用を図っていく。
地域活用材の充実・外部人	外部人材との円滑な調整を図り、学習支援を充実させる。	1	4	新型コロナウイルス感染症対策で、外部人材の活用を控えざるを得ない状況が続いた。体力テストのボランティア、学生ボランティア合わせて、50時間程度の学習支援に留まっているが、地域コーディネーターと連携しながら、校外学習の見守りやお店見学の受け入れ等で、保護者や地域の方に御協力をいただいている。今後も計画的に外部人材を活用した学習を実施していく。	3	4	外部人材の招聘を控えなければならない状況が長く続いたため、外部人材による学習支援については充実させることが難しかった。2学期以降、学校に入ってくる方の人数は増えてきており、連絡調整もしっかりできてきているので、感染状況を見ながら今後も外部人材の活用を充実させていく。
	地域学校協働本部の地域コーディネーターと連携して、校内の環境整備活動や児童の放課後の活動を充実させる。	4		毎日の校内消毒やウサギのお世話、図書室の環境整備等を、ボランティアを募って行っている。また、「みどりのほうかご」の活動を83回行い、延べ6000人の児童の参加があった。「ほうかごスタディールーム」に参加している学生ボランティアの人数を充実させ、子供たちにとって、よりよい学習環境づくりをしていく。	4	4	新型コロナウイルスの感染状況により、コミュニティ・スクールのキックオフイベントについては、実施を断念した。感染状況を見ながら、形を変えて実施できるものを検討していく。実施できないものも多くなってしまったが、ウサギのお世話ボランティアに多くの参加があったこと、「みどりのほうかご」の活動に2000人ほどの児童の参加があったことは、大きな成果であった。
体力・運動意識の向上	体力向上のための方策を体育的行事委員会できまとめ、全校で共通の実践を行う。	2	4	新型コロナウイルス感染症対策が緩和され、通常の体育科学習や体力テストにおいて感染症防止対策をしながら実施することができた。体力向上のためには、全校で共通した実践を行う必要がある。感染予防に十分に配慮して安全に水泳指導を行えたことは、大きな成果であった。今後は、縄跳びや持久走等、冬の体力作りにも力を入れていく。	3	4	密にならないように学年を兄弟学年の3つに分け、持久走月間やなわとび月間の朝の取組を行い、体育の学習も感染予防を徹底しながら内容を工夫して実施した。児童アンケートでも「体育の授業を楽しみたい、体力をつけたい」という設問の肯定的評価が91%と高評価だった。体力テストのソフトボール投げの数値が例年低い傾向にあるので、改善を図っていく。
	「緑小の新しい生活様式」の定着を図り、新型コロナウイルス感染症の予防に努める。	4	4	児童の安全を第一に考え、新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底してきた。児童も「緑小の新しい生活様式」をしっかり意識して行動している。今後、冬に向けて感染が拡大することも予想されるが、感染対策に力を入れながら、できることは何かをしっかりと考え、工夫した教育活動を行っていく。	4	4	小金井市教育委員会の「感染症予防ガイドライン」に基づいて、感染症拡大防止に努めた。「緑小の新しい生活様式」をベースにしながら、感染拡大の状況に応じて、授業の内容や休み時間の遊び方等をその都度見直し、工夫しながら教育活動を行うことができた。大きな行事については、今後も状況に応じて安全でよりよい実施方法を模索していく。
特色ある学校づくり	各学年の発達段階に応じた環境教育を実践し、児童自ら考え実践しようとする意識を高める。	1	4	児童自らが自分にできる環境を守るための取組として、今年度から「ハチドリプロジェクト」が実施された。高学年を中心に総合的な学習の時間などで取り上げている途中なので、まだ課題が多く残る。今後、学校全体としての取り組み方を検討する必要がある。	1	4	低学年では、自然を大切にする活動やごみの削減を考える活動に取り組んだ。中学年は、環境教育や障害者に関する教育に取り組んだ。高学年は、防災教育や食品ロスの問題、環境教育に取り組んだ。「ハチドリプロジェクト」は今年度から取り組み始めたので、具体的なことのようなことが「ハチドリプロジェクト」につながるのか、学年や学校全体で共通理解があまりできていなかった。
	ホームページの充実を図るために、2日に1回は更新を行う。	1		トップ画面の「学校の様子」の更新を21回、コミュニティ・スクールのページの「お知らせ」の更新を10回行った。平均すると、月に6回更新したことになる。更新回数が少ないので、コンスタントに更新をしていく必要がある。	3	4	9月以降、週3回程度更新を行えるように努めた。保護者アンケートの「学校は、学校公開・保護者会・たより・行事などを通して、子供たちの様子を分かりやすく伝えたい」という設問では、92%の保護者が肯定的な回答をしているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、行事等の縮小をせざるを得ない状況が多々あったことを考えると、ホームページでの情報発信回数をもっと増やす必要があった。